

「幻想と失敗」：イスラエル人アナリストのガザ戦争分析

パレスチナ・クロニクル編集部、2025年6月30日、脇浜義明訳



ガザの援助センターに押し寄せた飢えた人々。(Photo: video grab)

イスラエルのアナリスト、マイケル・ミルシュタイン氏は、ハマースが支配を維持し戦略的目標が崩壊する中、イスラエルはガザにおいて2つの失敗した選択肢の間で依然として行き詰まっていると指摘している。

米の戦争協力と仲介でイランと停戦したイスラエルは、再びガザで馴染み深いジレンマに直面した。イスラエルはガザ軍事作戦の目標は、ガザにおけるハマースの政治的・軍事的インフラの殲滅と、人質全員解放であったが、現在に至ってもどちらも達成できていないと、元イスラエル諜報機関幹部のマイケル・ミルスタインが述べている。これは、今日のイエディオト・アハロトに掲載された彼の論評記事に書かれたもの。彼は現在テルアビブ大学のダヤン・センターのパレスチナ研究フォーラムの所長である。彼は、ハマースが依然としてガザの一貫した支配勢力として存在し、ハマース殲滅を図るイスラエル軍に抵抗していると書いた。

ハマースに代わるガザ統治勢力の不在

「イスラエルは長い回り道を余儀なくされ、結局1年前と同じ戦略的T字路に立っていることを発見した。二つの嫌な道 — ガザの全面的占領か、ないしは終戦にして軍を撤退させる妥協かのどちらか — に直面している」と彼は書いている。停戦を破ってガザ・ジェノサイドを再開し、3か月間攻撃強化しても、このジレンマは解けなかった。何人かのハマースのトップ指導者を殺害したにも関わらず、「ハマースは依然頑強で、抵抗勢力を指導し、公的空間を支配している」とアナリストは指摘し、「イスラエルのディスコースのような混乱はハマースにはない」と書いた。

さらに、いくら軍事的圧力をかけても、戦争目的の一つに挙げた人質解放は実現していない。例外として米国とイスラエルの二重国籍をもつイスラエル兵人質を解放したが、これはイスラエルへの譲歩というより、トランプ米大統領へのサービス・ゼスチュアであった。

戦略的「幻想」

ミルスタインはイスラエル世論の非現実的期待を、「幻想」と呼んで、批判している。幻想の一つは、ハマスをすぐに壊滅できるという思い込みで、壊滅した後ガザを以前のように占領した場合どうなるかを真剣に考えない単純なハマスの打倒である。ミルスタインはガザの全面的占領の主張は概して極右派のイデオロギーで、戦略上の必要性を装ったはったり戦術であると警告している。二つ目の幻想は「アラブの国にガザを統治させることが可能」という幻想。具体的にはエジプトだが、エジプトは拒否している。第三の幻想は「ハマスの代わる胡散臭い勢力が支配する飛び領土とする」という幻想で、具体的には、イスラエルが武器と資金を与えた犯罪グループであるヤセル・アブ・シャラブー派などが挙げられている。

最も厄介な幻想は、ミルスタインの意見では、トランプが提案した計画のガザ住民の強制移住である。そのような民族浄化は「世界のどの国も賛成しないし、実行に協力しないだろう」と彼は言う。

ミルスタインは、ガザ戦争にはもっと広い中東とつながる力学が働いていると説く。特にイランである。ガザ戦争をいつまでも継続すれば、イスラエルの軍力が消耗し、特に予備役兵力が枯渇し、イランへの政治的注目を弱めると、警告する。さらに、国内の政治的亀裂を深め、外交的孤立がますます促進される。

彼は、結論として、ガザの現実を変えるためには3つの条件が必要だが、それは現時点では手に入らないという。明確で継続できる計画、イスラエル国内のコンセンサスの基づく計画、それに対する国際社会の支持の3つである。